

もみじ

—広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. パラクライミング日本選手権 (3/13~14 福山) 報告
2. 登山教室 (3/7 十方山、3/21 白木山) 報告
3. 安佐北消防署との連携訓練 (3/16 加坊山) 報告
4. 岳連短信 (寄贈御礼、4~5 月の行事)

1. 2020 年度パラクライミング日本選手権報告

～日本のトップパラクライマーが福山市に集結～

(福山山岳会 大田 祐介)

一般社団法人日本パラクライミング協会(JPCA、共同代表: 鈴木直也・小林幸一郎、東京都武蔵野市)により、2020 年度パラクライミング日本選手権大会(2020 年度パラクライミングジャパンシリーズ第 2 戦)が、3 月 13 日～14 日にエフピコアリーナふくやまで開催されました。当初は 1 年前の新体育館のこけら落としに合わせての開催予定がコロナ禍により延期となり、1 年後に「無観客」という設定で実現したものです。

日本全国から世界選手権メダリスト含む 27 名のパラクライマーが集まり、各障害クラス「視覚障害」「切断(上肢・下肢)」「神経障害」に分かれて競い、さらにパラリンピックの基準に準じて、それぞれの障害の程度に応じたクラス分けが行われました。クラスごとに予選と決勝があり、手に汗握る緊張感あふれる登攀が繰り広げられました。ただしパラリンピック種目には未認定であり、これから各方面への働きかけが必要と考えます。

競技は健常者のスポーツクライミングでのリード競技とほぼ同様のルールとなり、おもに登ることので

きた到達高度で順位が決まります。視覚障害の選手はパートナーとなるナビゲーターからの声による指示

(11 時の方向! など)を参考にして手がかり足がかりを探りながらクライミングウォールを登ります。「切断(上肢・下肢)」「神経障害」の選手も道具に頼ることなく、鍛えた身体と技術を使ってクライミングウォールの頂点をめざします(ロープなどの道具は、墜落時の安全を確保するためのみに使用)。それぞれの障害による登り方の違いも魅力のひとつでした。

大会で使用したエフピコアリーナのクライミングウォールは、体育館設計時に東京オリンピックを見越して福山山岳会が建設を要望し、広島県山岳・スポーツクライミング連盟の指導にて実現した壁です。国際大会と同様に高さ 15 メートルあり、その高度感も見応えのひとつとなりました。大会運営は数日前の大会用ルートセットから始まり、当会のクライミング部のメンバーがボランティア(ビレイヤー等)として協力してスムーズに進行しました。なお、開会式には枝廣市長も出席されましたので、せっかく作った壁を今後より魅力的に運営するには、定期的なルート変更とそれに伴うホールドの追加購入が必須であることを要望しておきました。

最後に、施設の評判も良かったのですが、福山の老舗登山用品店「アシーズブリッジ」や、「虎屋本舗株式会社」「株式会社ピーターパン」「株式会社インデック」「山野峡大田ワイナリー」等の地元企業による協賛品の数々に多くの選手が喜ばれ、また来期も開催して欲しいという声をいただきました。現在、11 月 20 日～21 日の開催予定で話が進んでいます。

・協力：福山市スポーツ振興課、福山山岳会、広島県山岳・スポーツクライミング連盟

・後援：鳥取県山岳・スポーツクライミング協会、島根県山岳連盟、一般社団法人岡山県山岳・スポーツクライミング連盟、山口県山岳・スポーツクライミング連盟

協会公式ウェブサイト：

<https://www.jpca-climbing.org>

【決勝】2020 年度パラクライミングジャパンシリーズ第 2 戦 (※概要欄に各選手のスタートリンクあり)

<https://www.youtube.com/watch?v=7E05YzPcNXk>

(最後のページに写真を掲載しています)

2. 登山教室報告

(指導部長 森本 覚)

第 9 回 3/7(日)

登山形態：日帰り山行

山城：十方山

人数：12 名 (スタッフ含)

今回は今期最後の雪上講習だったのですが、最近気温が高く気になっていたものの、なんとかギリギリ雪上歩行の練習ができました。(森本)

(感想文)

『十方山の山行を終えて』

(登山教室 1 年 島崎 睦子)

暖かい日が続いたので、雪もあまり残っていないかと思っていたのですが、想像以上に雪が残っていました。ワカンを使わなくていいだろうと車において行きましたが、かなり積雪があり、はいていたほうが良かったらと思うところもありました。木の近くで、足がずぼずぼと何回もはまってしまいました。木の根がはったところや、枝が倒れているところ、水が流れているところでは、空洞になっていて、はまりやすくなっているので慎重に歩きました。また、枝の跳ね返りで、目を傷つけてしまったメンバーがいて、流血していたので心配しましたが、幸い手持ちの目薬をさして落ち着いたので良かったです。目にゴミが入ったりすることもあるので、水で洗い流せるように注射器を持っているとリーダーに教わりました。スポイド的なものを持っていると応急処置ができていいと思い

ました。

雪山では、今まで尾根を歩いてルートを探すように教わりました。毎回悩む場所に遭遇します。コンパスで目的地の方向をセットしますが、その方向に藪が茂っていたり、足場が悪かったりすることがあるので、歩きやすいところを歩くように言われました。急がば回れですね。ルートを間違えることがあっても、気づいて修正できればいいと教わりました。もっと訓練しないとだめですね。今回、眺望がいいところが何か所もあり、周辺の山々を見渡せて気持ちが良かったです。

雪山を堪能したのち、駐車場で、雪崩探索ビーコンを使って、埋まっている人を探すシミュレーションを行いました。探される方と探す方どちらもビーコンを持っていることが前提です。埋まっているところが確定したら、グループのみんなで、ゾンデ棒で効率良く探索する方法を見せてもらいました。いつそういう場面に遭遇することがあるかもしれません。避難訓練と同じで、実際、練習しておくことが大切だと思います。楽しい雪山訓練でした。ありがとうございました。





(写真提供 森本)

第 10 回 3/21(日)

登山形態：日帰り山行

山城：白木山

人数：11 名 (スタッフ含)

今回は今期最後の講習でした。半日は雨の中の行動と

なりましたが全員無事完歩できました。(森本)

(感想文)

『2020 年度、最後の登山教室を終えて』

(登山教室 1 年 カモト)

今回の計画は JR 上三田駅から白木山へ縦走し、鬼ヶ城山経由で上深川駅へ降りるロングコースでした。天候は雨、今年度の教室が全て晴れだったので、雨に対応できるかが不安でした。天候不良のせいでしょう、人気の白木山で私達以外の登山者に会いませんでした。

6:40 上三田駅を出発した頃は小雨でした。稜線に出た 8:00 くらいから雨が強まり「降るんだったらこれくらい降らないと」と誰かが一言。稜線なので風も強く、動いていると快適、休憩で動きを止めると身体が震えるような寒さを感じました。この日は 1 日気温が低く、午後から雨は止みましたが一定高度から上はガスって視界も悪い条件でした。

白木山までの縦走路は踏み跡が不明瞭でテープも少なく、自分が先頭の際は尾根を外さない事を基本的に地図とコンパスで慎重に歩きました。何か所かの分岐では正しいルートと自分の感覚が合わない箇所があり、そこで先頭だったら自信を持って反対に行っていたと思われまます。

白木山手前 1.5km 付近で、寒さを訴える隊の一人に着替えなどの措置が行われました。停滞時間は 12 分、再スタート後の歩行ペースが凄く速かったのですが、これは停滞で冷えた体を温めるためと聞き、実践的な内容を学べる教室の良いところと感じました。これだから教室は休めません。

体調不良者はもう一人出ましたが、白木山の山頂で荷物を分担し計画どおり鬼ヶ城山方面へ進みました。このころになると雨は止んでいましたが、雨でぬかるんだ道は滑りやすく、濡れた石や木の根っこで滑らないよう注意しながらの歩行でした。鬼ヶ城山から先、高度を下げるにつれガスが取れ遠望がきくようになりました。二十畳岩から見える広島市東部の山や瀬戸内海など、雨上がりの景色は美しかったです。

計画よりも遅れていた時間帯もありましたが、ゴールの上深川駅にはオンタイムで全員無事に到着。今季

初めての雨と風で冷える悪条件でしたが、それだけに計画どおりの 18km 走破には満足感がありました。雨の日登山も悪くないですね。

今年度の 1 年生カリキュラムは、新型コロナウイルスの影響でハイキングコース全 10 回の新メニューで対応していただきました。テント泊はありませんでしたが、行動食で長距離を歩いたり、カシミールの操作方法が習得できたりしたのは大きかったです。個人の登山でも長距離が歩けるようになり、カシミールで計画的な登山ができるようになりました。

帰りの車中、1 年生のムードメーカー A さんと 2020 年度登山教室について振り返りました。「この 1 年間で良い方へ変わったね！」で意見は一致。来年は装備が重くなる不安はあるけど、従来の 1 年生カリキュラムを頑張っていこうと誓いながら帰路についたのでした。

スタッフの皆さん、受講生のみなさん引き続きよろしく願いいたします。



(写真提供 森本)

3. 広島市安佐北消防署との連携訓練報告

(指導部長 森本 覚)

日時：3 月 16 日(火)17 日(水)9：30～12：00

場所：加坊山

実施内容：1. 滑落場所から登山道上への引揚救助訓練

2. 登山道上から登山口への搬送救助訓練

参加者：広島市安佐北消防署 中島救助隊

指導部遭難対策委員会 (16 日：森本、大田

17 日：塩田、勝田、岡谷)

安佐北消防署と広島県山岳 SC 連盟の山岳救助活動技術の向上と連携協力関係を強化する目的で訓練を実施しました。今回で 3 年目となります。

16 日、広島市総合防災センターに集合し、ミーティング後登山口に移動しました。

登山口では家族からの通報の内容をもとに、座標と思われる数値の情報が伝えられ、各自のスマホに数値を入力後に入山を開始しました。ちなみにアプリは「ジオグラフィカ」を使用されていました。通報は Google マップでの情報が多いそうです。その場合は小数点座標となりますが問題なく検索できました。事故発生地点と誤差はありましたが、声が届く範囲まで近づく事が出来ました。要救助者を発見後、救助者がリードクライミングの要領で進みました。

ビレイはエイト環を使用した支点ビレイでした。フィックスを張った後、2 番目の救助者が支点をバタフライノットで固定した後に、トラッカーズヒッチでテ



ンションを掛けていました。その後バスケット型ストレッチャーを搬入し要救助者を乗せて引き揚げ、樹林帯の斜面をトラバース気味に登山道に繋げて下山するという訓練内容でした。

(連盟からのアドバイス)

1. 事故発生場所に降りる時は落石の危険があるので、真上からのアプローチは避ける様にアドバイスしました。
2. 引き揚げの時は直接引き上げるのではなく上部にある木で支点を作り、1 ターンさせる方が安定して行動できるとアドバイスしました。
3. 事故発生地点から登山道に抜けるトラバースの斜面では、足元が崩れる可能性を考慮して搬送者が集中しないようにスリングやロープを使い分散する様にしました。それから振れ止めの確保者を少し上部に配置する様にアドバイスしました。
4. つづら折れの階段で下山する登山道では、確保用 50 m ロープ 1 本の使用でしたので継続した確保ができる様にセンターに中間エイトをつくり、バスケット型ストレッチャーに取付けて 1 名は先行して確保の準備をしつつ、1 名が後方で確保するという方法をアドバイスしました。
5. 「オートロックの安全環付カラビナが支点の使用に不向きと言われてるのはなぜか？」の質問には、支点に使うにはカラビナの向きや右手左手の操作とか使用方法にバリエーションがあるので、ロックの解除が難しい場合があり不向きだと思うと回答しました。安全環の場合はスクリータイプの方が単純なのでお勧めだと言う事を説明しました。

同行したメンバーは支点の間隔やビレイ者の安全確保の状況をアドバイスしていました。17 日のメンバーは、トラバース時の支点の固定は通過位置に近い時はクローブヒッチを、遠い時はバタフライノットを使うとか使い分けた方が良いとアドバイスしました。その他ガルーダヒッチなどの結び方の使用方法をアドバイスしました。ストレッチャーの確保にカラビナ 1 ターンで作業されていたのでムンターヒッチを試したところ制動がかかり過ぎました。

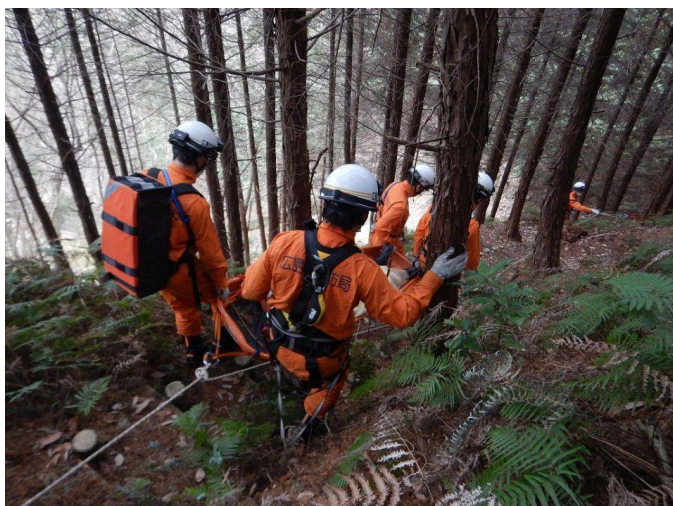
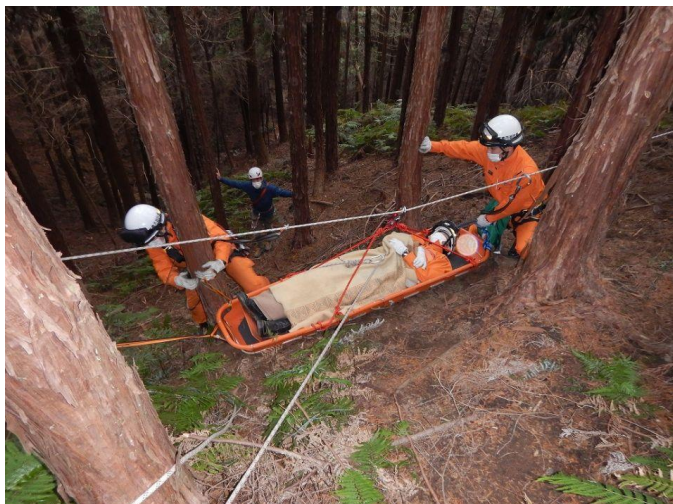
岡谷顧問からは、岳連主催の雪山救助研修会には是非とも参加して頂くようにお勧めしたという事と、遭難事故の際に地域的な事などアドバイスは可能だと思いますので、必要な時には出来る限り早くご連絡頂けると協力は可能ですと伝えましたとの報告を受けています。

今回安佐北消防署の山岳救助訓練に参加させて頂いた全員、大変貴重な経験が出来て大変勉強になりました。我々も更なる救助技術の向上と安全登山の普及に努めなければならないと気持ちを新たにしております。

最後になりましたが、今回の山岳救助訓練の計画と実施頂いた広島市安佐北消防署警防課救助係の皆様ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

(写真提供 森本)





(感想文)

『山岳救助訓練参加について』

(指導部 大田 由孝)

この度、初めて訓練に参加をさせていただきました。初めての参加で勘違いをしており、いろいろ消防隊の方から救助方法を教えて頂くのかと思っていたところ、逆に訓練を見てアドバイスをする立場であるという事に当日驚いてしまいましたが、とても勉強になった1日となりました。最初に感じた事は、消防隊員が使用しているガチャ類も普段我々が使用する道具と殆ど変わらず、ロープワークもアルパインでよく使う手法とあまり変わらないという事に驚きました。日頃から訓練をしている隊員の動きはやはり素晴らしく、一番は必ず声出し確認を全員で行っているという事が素晴らしいと思いました。人を救助をするという平常心でない時には声出し確認をしっかりする事が私たちにも必要なのではないかと感じました。短い時間

ではありましたが森本指導部長の的確なアドバイスで消防隊員の方もすぐに実践に取り入れて訓練を行う姿を見て、今後ともこうした訓練を続ける事により連盟と消防が連携し、お互いの長所を生かし、より迅速な救助活動を行っていく事ができるのではないかと強く思いました。消防隊員の方の若いパワーには我々は全く敵わないかわりに、山での経験などを伝えて行く事ができると思います。定期的にもこうした訓練に参加ができればと思います。良い経験をさせていただきました。ありがとうございます。

4. 岳連短信

1. 寄贈御礼

広島三峰会『やぶこぎ』43号 (R2年)

(1年間の活動のまとめで、72頁の冊子です)

三原山の会『筆影』No. 493 (4月号)

広島山岳会『山嶺』第868号 (R3.3月)

『中信高校山岳部かわらばん』第693号 (3/16)

広島やまびこ会『やまびこ』No. 778 (4月)

広島山稜会『峠通信』第742号 (4月)

福山山岳会『会報』R3.4月号

60th JMSCA 1960-2020 創立60周年記念誌

竹原山岳会創立60周年記念誌『きれっと』

2. 4~5月の行事

4/29(木祝)国体山岳SC競技県選手選考会 (CERO)

5/6(水)第1回理事会兼第2回運営会議

5/15(土)2021(令和3)年度定時総会 (ホテルチュリッヒ東方2001)

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。



2020 年度パラクライミング日本選手権 (3/13~14 エフピコアリーナふくやま) (大田さん撮影)